

愛知県 一宮市（木曽川上下流域交流会の実施）

- 一宮市には森林がないことから、公共施設における木造化・木質化や、木製備品の調達等による木材利用の促進、木育の機会の創出といった普及啓発に取り組むこととしている。
- このため、令和6年度においては、以下の取り組みにより、普及啓発を行った。
 - ・木曽川上流域に、市内の小学生親子を引率し森林環境学習を行った。

□ 事業内容

木曽川上下流域交流会（親子木曽川源流探検隊）

市内の小学生親子を対象とし、木曽川源流の里である長野県木曽郡木祖村へ日帰りバスツアーを開催し、森林環境学習を実施。

【事業費】458千円（うち譲与税300千円）

【実績】7月27日(土)に実施
20組59名が参加



（自然体験（こだまの森））



（味噌川ダム監査廊見学）

□ 工夫・留意した点

- ・行きのバスの中で森林の役割等の座学を行い、実際にこだまの森に行き、自然体験を行った。
- ・木祖村観光協会と連携し、ひのきの箸セットを配付した。

□ 取組の効果

- ・自然の中での様々な体験、森林のはたらきや森林保護の大切さ、水資源の重要性について理解を深めるとともに、木曽川上下流域の交流を深めることができた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：42,805千円		②私有林人工林面積（※1）：0 ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：380,073人		⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- 一宮市には森林がないことから、公共施設における木造化・木質化や、木製備品の調達等による木材利用の促進、木育の機会の創出といった普及啓発に取り組むこととしている。
- このため、令和6年度に尾西緑道内において、老朽化が著しい橋をこの機会に、国産木材使用して整備した。

□ 事業内容

公共施設の木材利用

- ・橋の材料に国産木材を使用することにより、周辺の風景と調和した施設を設置した。

【事業費】11,605千円（うち譲与税11,133千円）

（譲与税は、木橋設置費に係る部分に充当）

【実績】木材使用量2.459m³

□ 取組の背景

- ・尾西緑道は、約1kmにおよぶ散歩道であり、多くの市民に利用されている。また、緑道には様々な樹木が植えられていることから、緑道の一部として国産木材を使用した整備を行った。



（周辺と調和した木橋）



（森林環境譲与税活用PR板）

□ 工夫・留意した点

- ・当施工箇所について、桜が連なる並木道であり、自然と交流できる散歩道として利用されている。動線上である橋の材料に国産木材を使用したことにより、緑道の一部として木の良さを身近に感じることができるようになった。

□ 取組の効果

- ・橋に木材を使用することにより、木材利用の促進につながった。
- ・材料に木材を使用することで、景色と調和することができ、散歩の際には、木の『ぬくもり』を利用者に肌で感じていただき、木の良さを利用者にPRできた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：42,805千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：380,073人	⑤林業就業者数（※2）：1人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 一宮市には森林がないことから、公共施設における木造化・木質化や、木製備品の調達等による木材利用の促進、木育の機会の創出といった普及啓発に取り組むこととしている。
- このため、令和6年度においては、浅井山公園内において、休憩施設であるベンチに、国産木材を材料として使用した。

□ 事業内容

公共施設の木材利用

- ・ベンチの材料に国産木材を使用することにより、周辺の風景と調和した施設を設置した。

【事業費】4,510千円（うち譲与税4,284千円）

（譲与税は、ベンチ設置費に係る部分に充当）

【実績】木材使用量0.567m³

□ 取組の背景

- ・浅井山公園は、公園中央の池を囲むように、自然豊かな公園として整備している。そのため、木のぬくもりを感じながら、池を一望できる休養施設へ更新するため、国産木材を使用することにした。



（周辺と調和したベンチ）



（落ち着きのある色、木目）

□ 工夫・留意した点

- ・設置箇所周辺は、池を眺めることができる場所である。そのため、ベンチの材料に国産木材を使用したことにより、木のぬくもりを感じながら池を一望できるようになり、周辺環境に調和した施設となった。

□ 取組の効果

- ・ベンチに木材を使用することにより、木材利用の促進につながった。
- ・材料に木材を使用することで、景色と調和することができ、休憩の際には、木の『ぬくもり』を利用者に肌で感じていただき、木の良さを利用者にPRできた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：42,805千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：380,073人	⑤林業就業者数（※2）：1人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 一宮市には森林がないことから、公共施設における木造化・木質化や、木製備品の調達等による木材利用の促進、木育の機会の創出といった普及啓発に取り組むこととしている。
- このため、令和6年度に萬葉公園において、老朽化した詩歌板更新に、国産木材を使用して整備した。

□ 事業内容

公共施設の木材利用

- ・詩歌板の材料に国産木材を使用することにより、周辺の風景と調和した施設を設置した。

【事業費】2,649千円（うち譲与税2,644千円）
（譲与税は、詩歌板設置費に係る部分に充当）

【実績】木材使用量0.104m³

□ 取組の背景

- ・萬葉公園は、萩の名所として万葉集に数多く歌われており、詩歌板が建てられている。公園内では菖蒲を中心とした花が植えられており、国産木材を使用することで調和を図った。



（周辺と調和した詩歌板①）



（周辺と調和した詩歌板②）

□ 工夫・留意した点

- ・当該工事箇所については、菖蒲を中心とした花が植えられている。開花の時期には、花しょうぶという鑑賞会のイベントが開かれることもある。詩歌板の材料に国産木材を使用したことにより、鑑賞する際には、花と木が一体となる調和した施設となった。

□ 取組の効果

- ・詩歌板に木材を使用することにより、木材利用の促進につながった。
- ・材料に木材を使用することで、景色と調和することができ、木の『ぬくもり』を利用者に肌で感じていただき、木の良さを利用者にPRできた。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：42,805千円		②私有林人工林面積（※1）：0 ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：380,073人	⑤林業就業者数（※2）：1人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ・緑の保全事業として、地域の貴重な緑を守るため「保存樹木」を指定し、啓発のため国産木材を使用した標識を設置した。
- ・公園で記念植樹を行い、国産木材を利用した銘板を設置した。

□ 事業内容

緑の保全事業

都市化の進展により、貴重な緑が減少しつつあることから、市内に残る貴重な緑地や樹木を保存し、またそれを表示する標識を設置。

【事業費】484千円（うち譲与税484千円）

【実績】木製標識 2基



（保存樹木標識）

植樹祭事業

公園開設30周年に伴う記念植樹を行い、国産木材を使用した記念銘板を設置。

【事業費】55千円（うち譲与税55千円）

【実績】木製銘板 1基



（記念植樹）

□ 工夫・留意した点

- ・木材を利用することにより木材利用の普及啓発に努めた。
- ・「森林環境譲与税」を活用している旨の説明を表示。

（裏面）

この看板は、『森林環境税』を活用して作成しています。



◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：42,805千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%		④人口（※2）：380,073人	⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- 一宮市には森林がないことから、公共施設における木造化・木質化や、木製備品の調達等による木材利用の促進、木育の機会の創出といった普及啓発に取り組むこととしている。
- このため、令和6年度においては、いちのみや駅ナカプラザの開設に伴い設置する備品に、国産木材を材料として使用した。

□ 事業内容

一般旅券発給事業（いちのみや駅ナカプラザの開設に伴う木製カウンター・ベンチ等の設置）

- ・ 駅ナカの便利さを生かした行政窓口の拠点として、新しく「いちのみや駅ナカプラザ」（パスポート及びマイナンバーカード窓口）を開設するに当たり、国産木材を使用したカウンター・ベンチ等を調達・設置した。

【事業費】1,529千円（うち譲与税1,529千円）

（譲与税は、国産木材を使用した備品購入に係る部分に充当）

【実績】受付カウンター 4台、記載台 2台、待合ベンチ 2台を設置

□ 取組の背景

- ・ 開設に向けて、駅ナカの雰囲気に調和した景観を創出するため、照明器具やサイン看板の取替等の施設整備を進めていく中で、窓口に必要な備品についても景観に配慮したものを新調することとした。



（受付カウンター）



（記載台）



（待合ベンチ）

□ 工夫・留意した点

- ・ 施設整備の一環として木製備品を設置することにより、駅ナカの景観にふさわしい明るさや親しみやすさが醸成されるようにした。
- ・ カウンター・ベンチ等を木製とすることで、木のぬくもりや優しさを利用者が目にして、肌に触れて感じられるようにした。

□ 取組の効果

- ・ 駅ナカの施設としてふさわしい景観とする点で一役買い、駅利用者の目にも留まり、気軽に立ち寄ってもらえる窓口となった。

※令和6年度窓口取扱件数（令和6年6月3日～開設）
19,222件

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：42,805千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：380,073人	⑤林業就業者数（※2）：1人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より